

# 新文明の構築

## —PBSの活動の意義について—

旧文明から新しい文明へ —何故新しい文明なのか—

### 論文のキーポイント

#### ○ 旧文明の問題点

##### 1. 人間至上主義・経済至上主義

産業革命以降、人類のみの繁栄を求める、人間至上主義、経済至上主義が、大量生産、大量消費、大量廃棄を生み出し、世界の貧困と戦争と自然破壊を生み出してきた。

##### ①. 世界の貧富の格差

先進国とそうでない国との貧富の差が激しく、70億人中、2割の先進国の人々が潤沢にありあまる生活が出来て、10億の人々が飢餓で苦しんでいる。

##### ②. 地下資源を巡る人類の奪い合い(戦争の歴史)

・ 化石燃料による地球温暖化の問題 (CO2 排出による)

異常気象による、作物の不作に貧しい国々が更に飢餓に苦しんでいる。

##### ③. 生物の多様性の破壊

人間に都合の良い動植物のみを成育し、それ以外の都合の悪い動植物を排除した結果、世界では種の絶滅が異常なスピードで進み自然体系が壊されつつある。

##### 2. 自然無限論の限界 『機関誌』2015/7月号 P21

【問題になっているのは、まさにこの“自然無限論”なのだ。世界人口が増大しつづける中、人口の多い新興国が先進国並みの物質消費生活を目指して経済発展を続けているため、エネルギー需要が激増し、自然が破壊され、大気中の温暖化ガスが増大し、気象変動が起り、資源獲得競争が激化し、食糧価格が高騰する……という悪循環を断つことができないでいる。人類はもはや“自然無限論”を捨て、“地球有限論”のもとで生きる決意をしなければならない。】

##### ①. 化石燃料（地下資源）の限界

##### ②. 地下資源の奪い合い

#### ○ 旧文明の根本的問題点

『機関誌』2015/7月号 P34

【私たちが自分の利益ばかりを考え、それに固執していると、地球上の他の生物を犠牲にしても、自分は幸福になるという錯覚に陥るのであります。他の生物種を犠牲にしても、人類は繁栄することができるか考える。これが現代文明の——言い直すと“旧文明”の大きな問題だと私は思うのであります。人間が自由に、自然界のすべてのものを最大限に利用することで、天国のような理

想的状態が実現する。—— とんでもない間違いだと私は思います。】

旧文明の問題点は、何れも、人間至上主義・経済至上主義の、非対称性重視の価値観から生じている。このような価値観から、生じる文明は、結局のところ、奪い、奪われる価値観から脱することは出来ない。

私たちが目指すのは、神・自然・人間の一体感（四無量心）に基づいた、地球上の生物も鉱物もすべてを含めて、神の子・仏の子と尊敬しあう価値観に基づいた文明の構築である。

## “新しい文明、構築のために

### ○ 新しい文明とは

- ・ 人間の幸福と自然界の発展とが両立する生き方
- ・ そんな生き方を支え、拡大する信仰、哲学、科学技術、政治、経済の全体

#### 1. 神・自然・人間の一体感（四無量心）

『次世代への決断』P243～257【自然界に四無量心を表現する】

環境方針の 基本認識に示された、「天地の万物に感謝せよ」の宗教心に基づく生活の実践こそが新しい文明の基礎と言えます。

#### 2. 再生可能エネルギーの利用（地下資源文明から地上資源文明へ）

#### 3. 日時計主義の実践

##### ①. 日時計主義の生活が、人類の未来を築く 『次世代への決断』 P178～179

【そういうわけで、この日時計主義の生き方を私たちはさらに進めていくとともに、その背後にある「人間・神の子」の考え方をしっかりと人々に伝えてください。この日時計主義の生き方をしていれば、「物がほしい」とか「遠くへ行きたい」とか「まだ足りない」とか「不安である」などという一種の精神的飢餓感から開放されます。今の日本には物があふれているのに、そういう“心の貧困”があります。物が多いことで、かえって精神が飢えている——そういう物質主義的な生き方から抜け出す道が生まれてくるのです。価値観の転換が行われて、外から何かを付け加えることで幸福を感じるのではなく、内部の神性を開発することに喜びを見出す。他から奪うことではなく、他に与えることで充足する——そういう新しい人間の生き方が広がっていく。また、そうでなければ人類が“自然と共に伸びる”ことは不可能であり、人類の未来はないと思うのですね。】

##### ②. 新しい文明を築くために

- ・ 三正行の実践
- ・ 二酸化炭素の排出を減らす生活  
(省エネ、太陽光、電気自動車、自転車等)
- ・ 地産地消・旬産旬消
- ・ 肉食を減らす

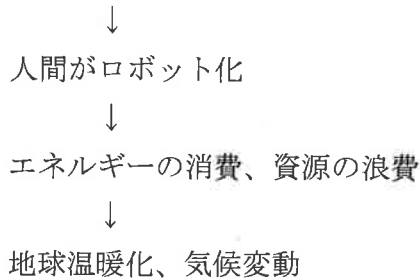
- ・ 農薬・化学肥料を使わない家庭菜園・農業
- ・ 手作りを楽しむ（食事、保存食も含めて）
- ・ 自分の家庭だけでなく、広く地域や世界の人のためになる愛の行い

これらすべては、人や自然に与える生活であり、大いなるムスビの働きです。

（機関誌「生長の家」2018年6月号45頁）

### ③. PBS（プロジェクト型組織）の活動の意味

- ・ 一番大切なのは「生命の本然は働くことである」ということ
- 現在社会は「自動化・省力化・効率化」の流れ



（機関誌「生長の家」2018年6月号19頁～20頁）

- 効率優先の生き方から、自然を愛する生き方へ 『次世代への決断』 P344～346
- “めんどくさい”が地球を救う—

生長の家総裁・谷口雅宣先生がノコギリで薪をつくられたときのお話

【自分は今、このクリという植物が何年もかけて大気中から収集した炭素の固まりを切っている。燃やして暖をとるためだ。これと同じことを大規模にやれば、森林破壊となり、温暖化が深刻化する。しかし暖をとらねば、人間が0℃の夜を無事に過ごすことは困難だ。だから、せめて森の“余剰分”と思われる倒木だけを利用させてもらおう。量的には、それで十分だ。それに、手引きのノコギリを使えば、1回にちょうどそれぐらいの量しか薪は作れない。チェーンソーがあったら、どうだったろうか？作業効率はグンと上がるから、必要以上に薪をつくってしまうか、あるいは作業を短時間で済ませて家にもどれる。楽な作業かもしれないが、そんな時、このクリの木の一生のことを考えるだろうか？節を避けて木を切るために、木の表面をよく観察するだろうか？クリの木肌に注意したり、香りをじっくり味わうだろうか？（略）そんなことを考えてみると、不便さや苦労の中には、効率とは別の価値がしっかり詰まっているのだと思った。】

- “プロジェクト”すなわち“投げかけ”“具体化する”  
行動に焦点を合わせて運動を推進する必要がある。

「信仰」という内側のエネルギーを実際生活などの外側に「行動」として表現しなければなりません。

SNI 自転車部・・・自転車でいける距離ならば車で行くよりも自転車に乗りましょう

SNI クラブ倶楽部・・・自然界の素材との直接の接触があり、「手を使う」という人間的な創造の幸福感が生まれます。

SNI オーガニック菜園部・・・作物を育てることの難しさと喜びを自分で体験してみる。  
有機農法で育った野菜や果物とスーパーマーケットで買った  
”規格品“との味比べを試してみる。

自らが行動によって自然と一体の喜びを生活に表現し、人々に分かち与えていく。

自然と人間とを“別物”と見ない価値観とライフスタイルへの転換を多くの人々に伝え  
仲間とともに喜びながら実践する運動

(機関誌「生長の家」2018年6月号 21頁～22頁)

原子力エネルギー問題のについて

A-1. 原子力発電の経緯

人類の欲望 『次世代への決断』P22

- ① 世界人口 70 億人への増大
- ② 物質消費型生活  
⇒ 経済発展エネルギー需要 激増 ⇒ 原子力エネルギー 採用  
ベースロード電源 (ドイツなどヨーロッパ諸国から非難されている)

A-2. 問題点 『宗教はなぜ都会を離れるか』P107

- ① 生物全体に有害な物質 (人類の経済発展だけの目的: 人間中心主義、愚かな選択)  
放射性廃棄物: 劇毒物 処理方法がない。蓄積している。  
⇒ 自然界共通の有害物: 発電技術には自然界への敵意が隠されている。  
⇒ 敵意を物質化する 明らかに 悪業を積む。  
⇒ 人と自然を分離。
- ② ウランは枯渇する。
- ③ 核兵器拡散の危険 (アメリカとの政策、日本だけでは廃止できない)
- ④ 地球温暖化を促進。 海の水で冷却
- ⑤ 中央集権 (東京電力、関西電力) 電力独占、政治と癒着の弊害

B 生長の家の真理に照らし 『大調和の神示』 『次世代への決断』P43 P148

「天地一切のものと和解せよ」 DNAを破壊する放射性物質を自然界に放出に反する。

- ① 「人間は自然と共存」
- ② 「自然と対峙しない人間」の生き方 : 自然中心主義: 自然の背後に人間以上の価値を認める
- ③ 自然無限論を捨て 地球有限論 安定的な自然環境維持出来る経済活動

C 生長の家の目指す方向

宗教法人「生長の家」環境方針 2000年10月11日 基本認識

地球環境問題は、その影響が地球規模の広がりを持つと共に、次世代以降にも及ぶ深刻な問題である。今日、吾々人類に必要とされるものは、大自然の恩恵に感謝し、山も川も草も木も鉱物もエネルギーもすべて神の命、仏の命の現れであると拝み、それらと共に生かさせて頂くという宗教心である。この宗教心に基づく生活の実践こそ地球環境問題を解決する鍵であると考えている。

生長の家は、昭和5年の立教以来、“天地万物に感謝せよ”との教えにもとづき、全人類に万物を神の命、仏の命と拝む生き方をひろめてきた。

生長の家は、この宗教心を広く伝えると共に、現代的な意味での宗教生活の実践として環境問題に取り組み、あらゆるメディアと活動を通して地球環境保全に貢献し、未来に“美しい地球”を残さんとするものである。

C-1. 脱原発 廃止するターゲット を決める。

- ① 5年程度で原発廃止し[自然エネルギー(再生可能エネルギー)+省エネ]で代替え
- ② 10年程度 同上

「原発ゼロ・自然エネルギー基本法案」 原発ゼロ・自然エネルギー推進連盟 超党派  
火力発電(石油、石炭など地下資源)も廃止する。 資源の奪い合いが無くなる。  
それが可能であることを 森のオフィスで実証

C-2. 自然エネルギー(再生可能エネルギー) 拡大運動

ZEH、ZEBの普及、メガソーラー(城陽、西郷)、ソーラーシェアリング  
脱原発を機に「自然と人間の大調和の世界」実現のための社会変革

- ① 人間の欲望を律する生き方 PBSなどめんどくさいが世界を救う生活
- ② 自然エネルギー重視の電力会社を選択する。ソーラーシェアリング(畑にソーラー)
- ③ 放射線廃棄物など次世代に負の遺産を残さない。(世代間倫理)
- ④ 新しい宗教的自然観、実相顕現運動

D 社会では 気候変動問題が大きく取り上げられた。

1997年 京都議定書にはじまり 2015年12月12日パリ協定、アメリカ 中国抜ける

D-1. ローマ法王フランシスコ教皇 回勅を公表 2015.6.13

(地球環境問題、カトリック教会史上初めて、富裕国大量消費⇒温暖化、干ばつ  
⇒貧困地域 生態系破壊、欲望優先のライフスタイルから 物質の奥の御心認め 感謝  
生活を見直す。温暖化効果ガス排出大国に削減努力、経済負担 消費主義批判)

D-2. イスラム教指導者「世界の気候変動に関するイスラム宣言」2015.8.18

(全イスラム教徒へ パリ協定の普遍的な合意への協力を求める)

D-3. 東日本大震災による東京電力福島第1原子力発電所の事故で、“脱原発”を決めた国がいくつも出た。

新しい文明構築に向け 神の国、世界平和を実現

『自他一体』を自分のものとする。 ⇒ 四無量心を行じる神想観 厳修

すべての命の一体感 右脳を活性化する。 ⇒ 命を感じる生活の実践。

PBS(SNIクラフト部 自転車部 オーガニック菜園部)低炭素生活を実践し信仰に  
基づいた生活する人を増やして、信仰的な社会を創る。

フェイスブックやSNSに入る 生長の家は世界宗教 日本 ⇒ 世界へ発信

脱原発は世界中が認める。これを機に 信仰心に基づいた生活を世界にひろげる。

人類のいま置かれている状況を理性によって正しく理解され、原発に依存する“エネルギー中毒”の生活から遠ざかる道へと、決然として歩み出されることを願っている。

それが、私たちの子や孫世代のための責任ある決断だと考える。そのような道の一つとして、  
『次世代への決断』では宗教的な立場から「自然の背後に人間以上の価値を認め、自然物に  
四無量心を行じる生き方」を提案している

## 【選択式問題】 令和元年 第4回 昇格受験勉強会 宿題

令和元年6月8日

1. プロジェクト型組織（PBS）〔SNI オーガニック菜園部、SNI 自転車部、SNI クラフト倶楽部〕とは何かを書いている。正しいものに ○ を付けよ。

- ( ) 趣味や特技を生かして、CO2 を削減するライフスタイルの啓発活動を行う組織会員（白・相・青）によって構成される。
- ( ) 信仰に基づく「倫理的な生活者」としての実践を通して、“自然と共に伸びる” 生き方を開発し、それを伝えることを目的とする
- ( ) 従来 of 運動組織（白・相・青）の枠をまもり、インターネットを介して既存組織の枠を越えることなく、それぞれで“自然と共に伸びる” 新しい文明の構築を目ざす。

参考資料「生長の家白鳩会・会員しおり」P54～58

2. 生長の家とイスラームの類似点で、正しいものに ○ を付けよ。

- ( ) 残念ながら「万教帰一」の考え方はイスラームにはない
- ( ) 理性主義的な宗教である
- ( ) 本当の存在（実在）は表面的な現象の奥に隠されていると説く

『衝撃から理解へ』P275－279

3. 総裁・谷口雅宣先生は、“利己心や欲望を最大の動機として、21世紀の科学技術が使われてはならない”と述べられている。生長の家の生命倫理に対する考え方として、正しいものに ○ を付けよ。

- ( ) 利己心や欲望を動機として科学技術を使ってはならないが、人類進歩の爲にはある程度しかたがない。
- ( ) 人間の生命は神の生命であり、物質ではなく霊的生命である。
- ( ) 人間の価値は遺伝的形質ではなく、霊的本質である。
- ( ) 「脳死は人の死」とは認めない。「心臓死は人の死」と認める。
- ( ) 人間は自然に生かされているのだから、自然の法則に逆らって、幸福は実現しない。

『今こそ自然から学ぼう』参照

4. 万教包容の広場は、神像、七層の石塔——「七重塔」、日時計、フラッグポール3本（通常は日の丸、聖旗、国際平和信仰運動のシンボルマーク旗）が設置させている。その意味について正しいものに ○ をつけよ。

- ( ) 日時計（壁面型）は、日時計主義の生き方を、家庭や職場、地域、国と国との関係に広く及ぼしていく運動の象徴として設置された。
- ( ) 神像は、宗教法人生長の家の発展を象徴するものとして設置された。
- ( ) 七重塔のデザインは実相世界の表現の一つである。「すべてのものが中心に帰一して調和している」ということを立体的に表している。
- ( ) 「すべて」「完成」を表す「8つ」の社が一体となって結ばれて、生長の家出現の使命を次の“象徴”として表している。

参考資料「生長の家白鳩会・会員しおり」P20～P22

5. 「七重塔」は、以下に書かれている7つの意味を持ちますが、⑦の数字の( )に入る言葉を記入せよ。

- ①万教帰一 <7つの宗教>
- ②国際平和の象徴 <7つの大陸>
- ③多様な民族の調和 <7つの民族>
- ④多様な文化の調和 <7つの文化>
- ⑤世代間の調和 <7つの世代>
- ⑥生物間の調和 <7つの生命>
- ⑦( ) <7つの拠点>

参考資料「生長の家白鳩会・会員しおり」P20～P22

6. 原子力問題に関するは事が書いてある。生長の家の考え方について書かれているものに○をつけよ。

- ( ) 人類の数が70億人を超えた中で、CO<sub>2</sub>を吸収する森林が不足し、食糧生産が頭打ちとなり、石油はもちろん水資源も枯渇しつつある時代に、人類が“欲望のスパイラル”を志向することは不合理を乗り越えて、病理的でさえある。
- ( ) 現在の原子力エネルギーの利用方法は、人間の欲望満足のためだけに自然界全体を犠牲にすることを厭わない、きわめて人間至上主義的な技術だと考える。

『次世代への決断』P21～22

- ( ) 原子力エネルギーは、放射性廃棄物が生産されますが、私たちはこれを生物にとって無害化する手段をもっていません。原子力エネルギーは、地球の生物とはまったく相容れない、人間と自然との不調和の産物ではあるが、人類は共存して行かなければならない。

『次世代への決断』 P229～230



【選択式問題】 令和元年 第4回 昇格受験勉強会 宿題解答

令和元年6月8日

1. プロジェクト型組織 (PBS) [SNI オーガニック菜園部、SNI 自転車部、SNI クラフト倶楽部] とは何かを書いている。正しいものに ○ を付けよ。

- (○) 趣味や特技を生かして、CO2 を削減するライフスタイルの啓発活動を行う組織会員 (白・相・青) によって構成される。
- (○) 信仰に基づく「倫理的な生活者」としての実践を通して、“自然と共に伸びる” 生き方を開発し、それを伝えることを目的とする
- (×) 従来の運動組織 (白・相・青) の枠をまもり、インターネットを介して既存組織の枠を越えることなく、それぞれで“自然と共に伸びる” 新しい文明の構築を目ざす。

参考資料「生長の家白鳩会・会員しおり」P54～58

2. 生長の家とイスラームの類似点で、正しいものに ○ を付けよ。

- (×) 残念ながら「万教帰一」の考え方はイスラームにはない
- (○) 理性主義的な宗教である
- (○) 本当の存在 (実在) は表面的な現象の奥に隠されていると説く

『衝撃から理解へ』P275～279

3. 総裁・谷口雅宣先生は、“利己心や欲望を最大の動機として、21世紀の科学技術が使われてはならない”と述べられている。生長の家の生命倫理に対する考え方として、正しいものに ○ を付けよ。

- (×) 利己心や欲望を動機として科学技術を使ってはならないが、人類進歩の爲にはある程度しかたがない。
- (○) 人間の生命は神の生命であり、物質ではなく霊的生命である。
- (○) 人間の価値は遺伝的形質ではなく、霊的本質である。
- (×) 「脳死は人の死」とは認めない。「心臓死は人の死」と認める。
- (○) 人間は自然に生かされているのだから、自然の法則に逆らって、幸福は実現しない。

『今こそ自然から学ぼう』参照

4. 万教包容の広場は、神像、七層の石塔——「七重塔」、日時計、フラッグポール3本 (通常は日の丸、聖旗、国際平和信仰運動のシンボルマーク旗) が設置させている。その意味について正しいものに ○ をつけよ。

- (○) 日時計 (壁面型) は、日時計主義の生き方を、家庭や職場、地域、国と国との関係に広く及ぼしていく運動の象徴として設置された。
- (×) 神像は、宗教法人生長の家の発展を象徴するものとして設置された。
- (○) 七重塔のデザインは実相世界の表現の一つである。「すべてのものが中心に帰一して調和している」ということを立体的に表している。
- (×) 「すべて」「完成」を表す「8つ」の社が一体となって結ばれて、生長の家出現の使命を次の“象徴”として表している。

参考資料「生長の家白鳩会・会員しおり」P20～P22

5. 「七重塔」は、以下に書かれている7つの意味を持ちますが、⑦の数字の( )に入る言葉を記入せよ。

- ①万教帰一 <7つの宗教>
- ②国際平和の象徴 <7つの大陸>
- ③多様な民族の調和 <7つの民族>
- ④多様な文化の調和 <7つの文化>
- ⑤世代間の調和 <7つの世代>
- ⑥生物間の調和 <7つの生命>
- ⑦( 拠点・組織間の調和と発展 ) <7つの拠点>

参考資料「生長の家白鳩会・会員しおり」P20～P22

6. 原子力問題に関するは事が書いてある。生長の家の考え方について書かれているものに○をつけよ。

- ( ○ ) 人類の数が70億人を超えた中で、CO<sub>2</sub>を吸収する森林が不足し、食糧生産が頭打ちとなり、石油はもちろん水資源も枯渇しつつある時代に、人類が“欲望のスパイラル”を志向することは不合理を乗り越えて、病理的でさえある。
- ( ○ ) 現在の原子力エネルギーの利用方法は、人間の欲望満足のためだけに自然界全体を犠牲にすることを厭わない、きわめて人間至上主義的な技術だと考える。

『次世代への決断』P21～22

- ( × ) 原子力エネルギーは、放射性廃棄物が生産されますが、私たちはこれを生物にとって無害化する手段をもっていません。原子力エネルギーは、地球の生物とはまったく相容れない、人間と自然との不調和の産物ではあるが、人類は共存して行かなければならない。

『次世代への決断』 P229～230



